

京都府の海岸は、総延長315kmの内、50%以上約170kmが天然の海岸となっています。その多くが入り組んだリアス式の海岸で、断崖にはシイ林、ブナ林、クロマツ林などが発達しています。



丹後松島 (京丹後市丹後町)

犬ヶ岬から東側の上野・平海岸を見下ろすと、大小様々な形の玄武岩が立ち並んでおり、この姿が日本三景の一つ「松島」によく似ていることから、こう呼ばれるようになりました。

琴引浜 (京丹後市網野町)

京丹後市網野町の北東部に位置する約1.8kmの全国でも有数の鳴き砂の海岸で、砂浜をすり足で歩くと“キュツ、キュツ”と鳴きます。

「全国白砂青松百選」「日本の音風景百選」「日本の渚百選」に選ばれています。



成生岬 (舞鶴市)

舞鶴市の最北端に位置する成生岬には、日本一のシイの巨木が存在しています。



冠島 (舞鶴市)

舞鶴市の沖に位置する冠島は、国指定の天然記念物「オオミズナギドリ」の繁殖地で、およそ20万羽が生息しています。

オオミズナギドリは京都府の鳥に制定されています。

海岸は、植物の生育には厳しい環境の場所ですが、この環境に適応し、美しい花を咲かせる植物が生育しています。



上：ハマゴウ
下：トウテイラン

海浜植物

京都府の浜辺には、環境庁のレッドデータブックに絶滅危惧種として指定されている「トウテイラン」をはじめ、ハマゴウなどの多数の海浜植物が自生しています。

丹後沿岸は、海岸が舞台となった史実・伝説・民話などが非常に多くあり、古墳や遺跡が数多く発見されています。

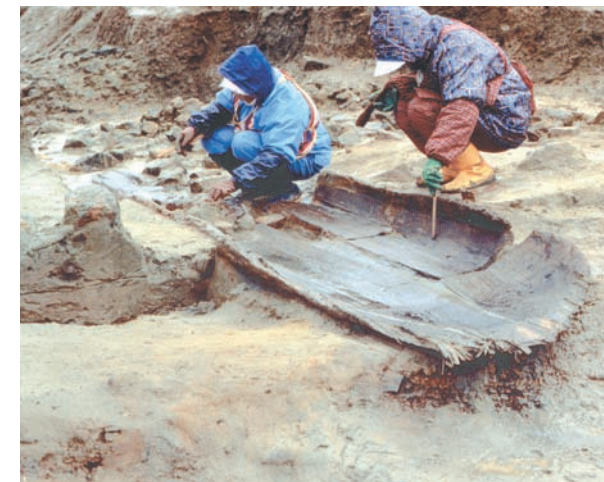
京都府の海岸は太古の昔から海洋交通の拠点として栄え、丹後地方は、古代大和政権が大陸や朝鮮半島との日本海交通の要衝地として重視していたと言われており、「古代丹後王国」の繁栄を物語る遺跡が多数発見されています。



神明山古墳 (京丹後市丹後町竹野)

全長190mを数える日本海側最大級の前方後円墳で、4～5世紀にかけて丹後一体を支配した豪族の墓とされています。

入り江が近く、埴輪などの出土品から海上交易に深く関わっていたものと考えられています。



浦入遺跡 (舞鶴市)

日本海側屈指の港湾都市である舞鶴も、その歴史は古く、天然の良港として、はるか縄文時代から開けていたようです。

舞鶴湾口部に位置する浦入遺跡群からは、我が国最古・最大級の丸木舟が発掘されました。

日本三景の一つ「天橋立」にも神話があります。イザナギノミコトがイザナミノミコトに会いに行くため天上から掛けたはしがが、ある時はずれ地上に倒れてできたと言われております。天橋立は神の贈り物かもしれません。



天橋立 (宮津市)